

图18 出土遺物 2 (S. =1/3)

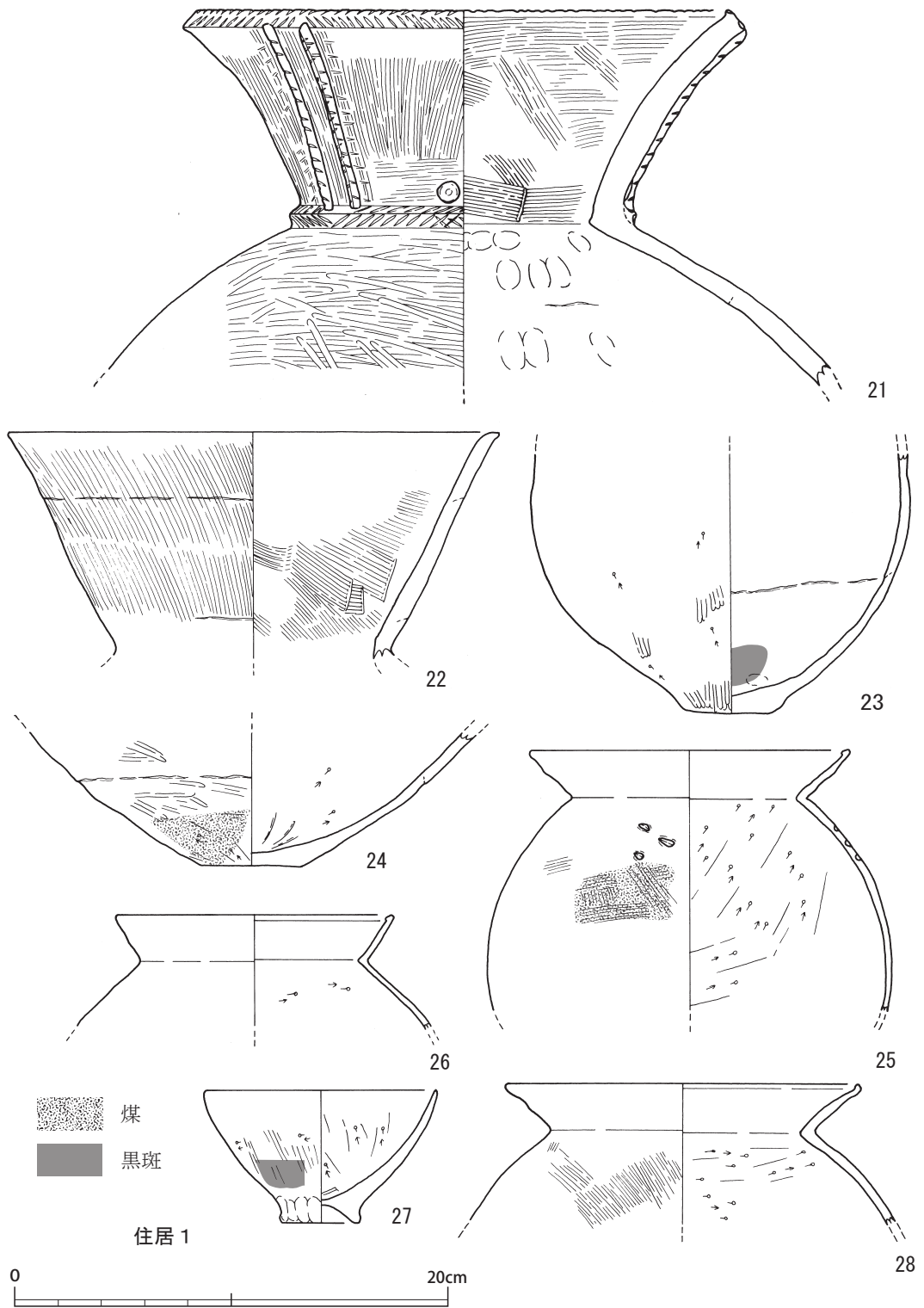
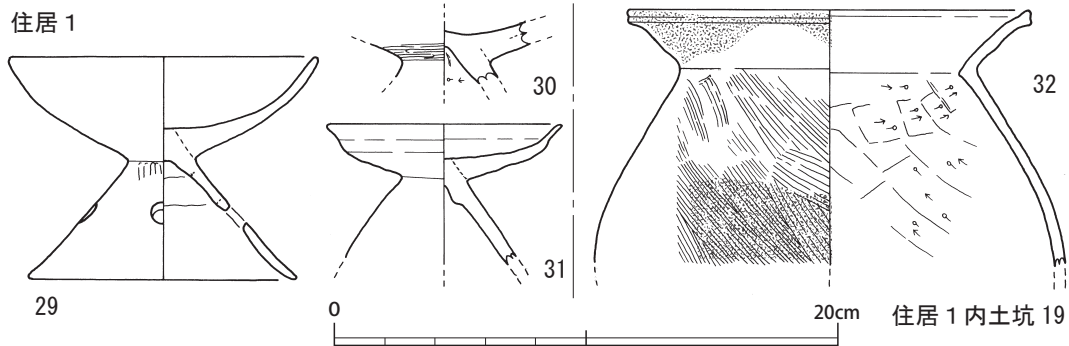
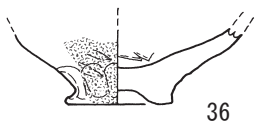
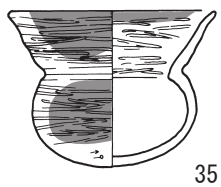
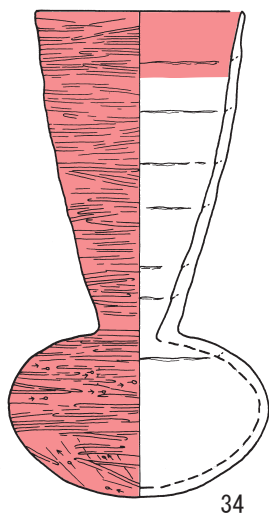


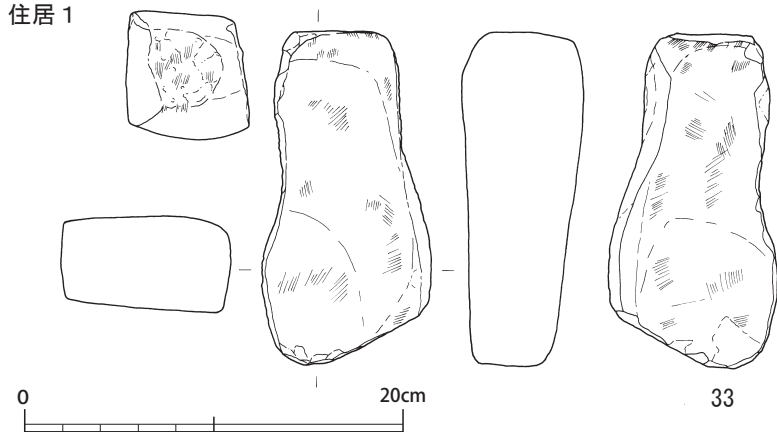
图19 出土遺物 3 (S.=1/3)



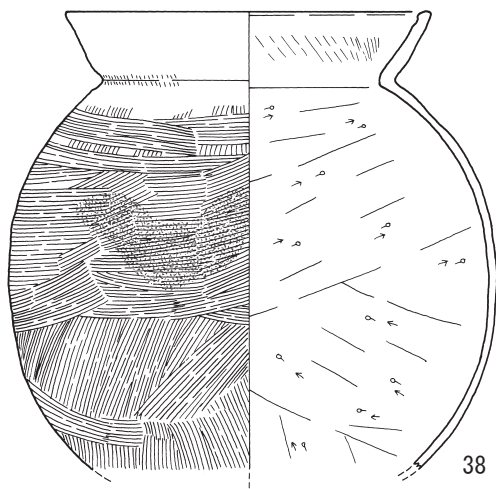
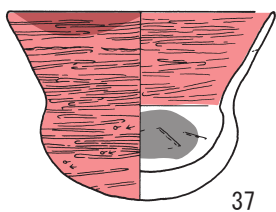
住居 2



住居 1



住居 3



住居 4

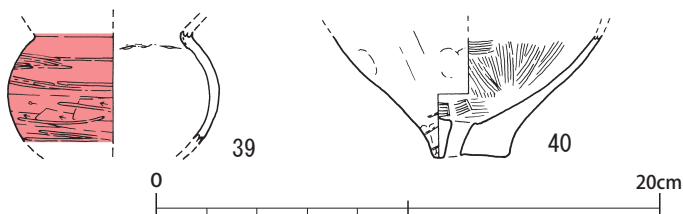


图20 出土遺物 4 (29~32・34~40:S.=1/3、33:S.=1/4)

(27) は鉢である。底部が下方に突出し、底面中央を窪ませた上げ底である。弥生時代後期から布留1式期までみられるものである。

(29)・(31) は器台である。(29) はC₂形式で、庄内1式期から布留3式期に認められる形式である。

(31) はC₄形式で、布留0式期～布留2式期に認められる形式である。

(33) は断面長方形の砥石である。長さ17.5cm、幅8.9cm、厚さ6.4cmである。砥面として2面を使用している。小口には敲打及び擦痕が見られる。

以上のように住居1出土土器は細別時期を特定することは難しいが、おおむね布留1式期に併行すると考えられる。

(34)～(36) は住居2出土土器である。(34)・(35) はいずれもほぼ完形である。(34) は細頸壺で類例の少ないものである。頸部高が器高のほぼ2/3であり、体部が扁球状を呈し、底部が丸底である。これらの特徴から(34) は弥生時代中期にみられる細頸壺ではなく、庄内式期にみられるものであると考えられる。(35) は小形丸底鉢で、器高の1/3程度の高さの口縁部をもつ。口縁部のくびれが明瞭であることから、布留1式期ないしは布留2式期に比定できよう。

(37)・(38) は住居3出土土器である。(37) は完形の小形丸底鉢で、器高の1/2程度の高さの口縁部をもつ。底部の厚さが1.2cmと厚い。口縁部のくびれはやや不明瞭である。(38) は、甕の口縁部から体部にかけて残存したものである。口縁端部はg₂手法で、体部は球形状である。いずれの土器も布留1式期とみられる。

(39)・(40) は住居4出土土器である。(39) は小形丸底土器の体部片である。破片資料であるため細別時期を特定することは難しいが、残存する体部の形態から布留式期の範疇であると考えられる。(40) は有孔鉢の底部片である。弥生時代後期から布留0式期まで認められるものである。

(41) は土坑5出土の須恵器把手付無蓋高坏である。把手は坏部の器高に対して大きく、断面長方形である。TK23型式併行期⁽⁹⁾に比定できよう。

(42) は土坑7出土の二重口縁壺の口縁部から受部が残存したものである。口縁部と受部の境界は、外面に断面三角形の突帯を巡らせることで強調しているが、内面の境界は明瞭ではないことからB₁形式に相当する。この形式は庄内0式期から布留0式期にみられる。

(43) は溝102出土の須恵器壺である。類例のあまり見られないものである。底部が平底で、底面に糸切りなどの痕跡は見られず、ナデ調整である。このことから古墳時代の須恵器であると考えられるが、細別時期の特定は難しい。

(44)～(46) は溝103出土土器である。(44)・(45) は甕の口縁部から体部にかけて残存したものである。口縁端部はいずれもb手法である。この手法は庄内式期に盛行したとされる。

(46) はB₅形式の高坏である。この形式は庄内3式期から布留1式期まで普遍的にみられるが、布留3式期までみられるとされる。

(47)～(59) は住居9出土土器である。(47)～(50) は住居埋土上層(図11-3層)から、(51)

～(58)は住居床面直上から、(59)は住居床面に掘られた土坑25からそれぞれ出土した土器である。

(48)は韓式系土器の平底鉢である。尾谷雅彦氏の型式分類と編年(尾谷1987)によれば、口縁端部が肥厚するCタイプで、6世紀代にみられるとされる。

(51)は広口壺の口頸部片である。口縁端部と口頸部には直径3mmほどの円形の竹管文が施さ

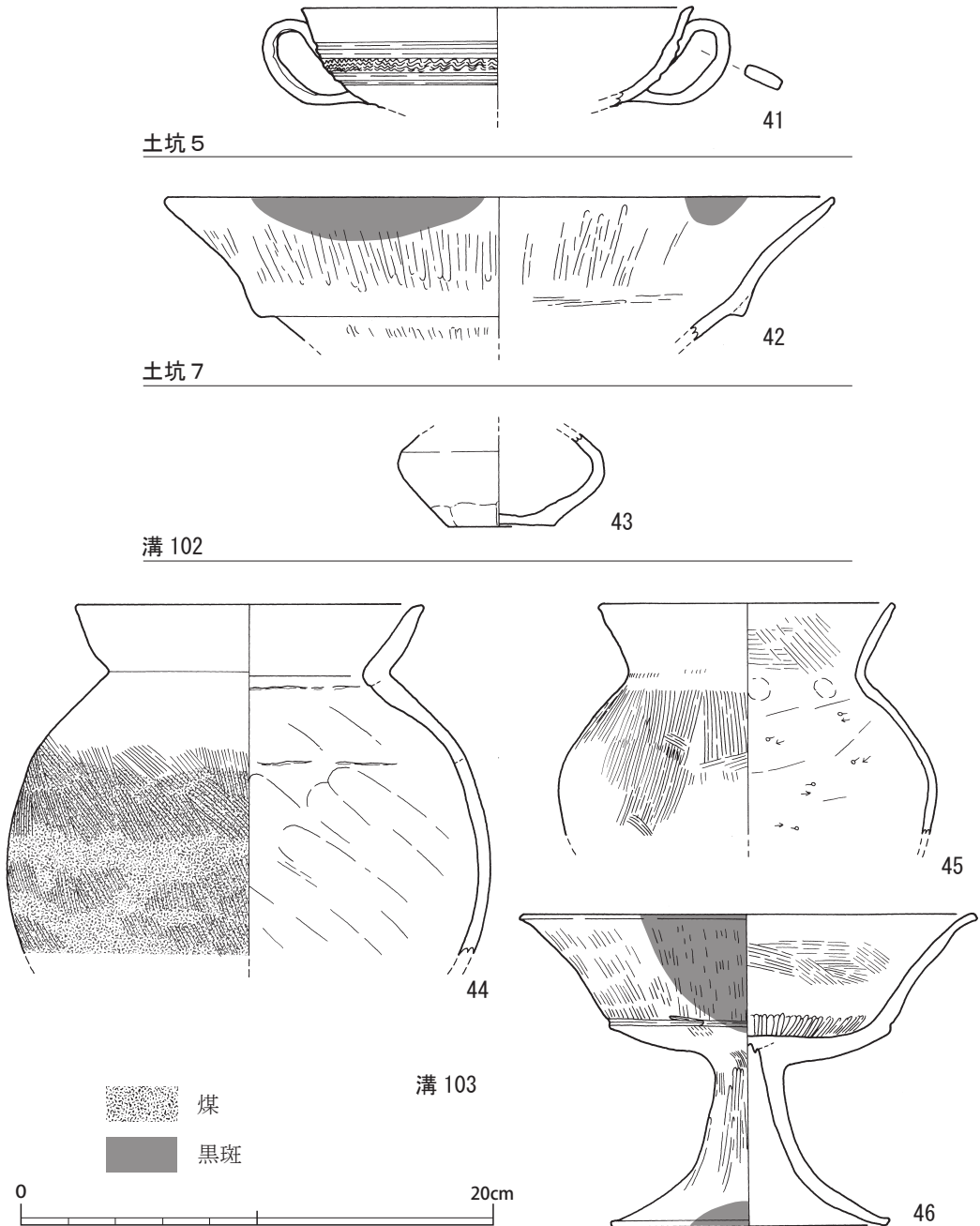


図21 出土遺物5 (S.=1/3)

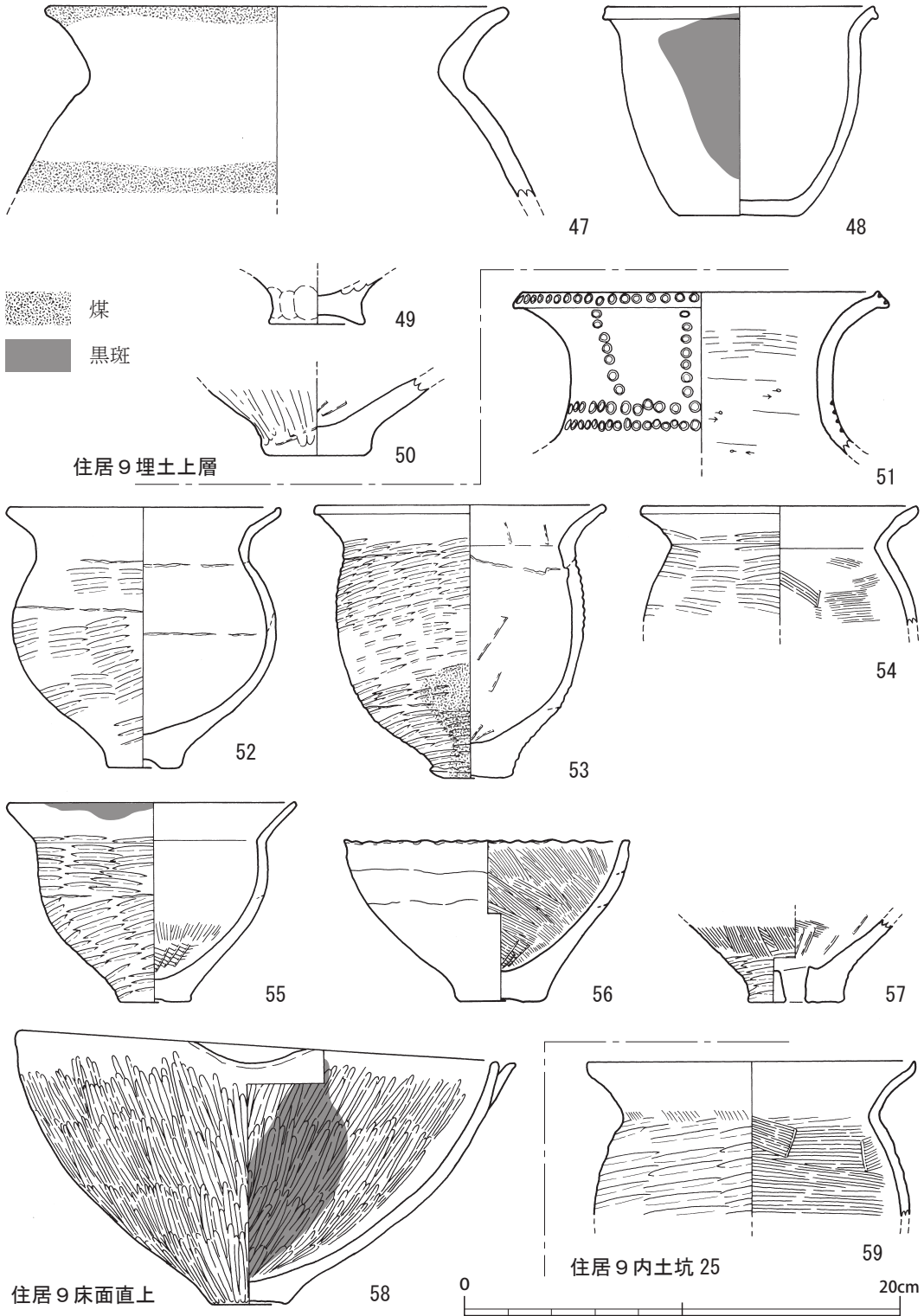


图22 出土遺物6 (S.=1/3)

れる。類例の少ないものである。

床面直上と土坑 25 から出土した甕と鉢をみると、(52) ~ (55)・(57) (59) は右上がりのタタキが施され、底部の端まで及んでいるものもみられる。底部の形態が判る (52)・(53)・(55)・(57) は下方に突出した小さな平底である。(52)・(55)・(56) は分割成形により作られた土器である。甕体部の形態には (53)・(54)・(59) のように肩の張らないものがあるが、(52) のように扁球状のものもある。このようなタタキの多用、分割成形、甕体部の球形化などといった特徴から、当該資料は大和第VI様式でも後半に位置するとみられる。

(60) は土器棺とした壺である。頸部はやや外反しながら外上方にのび、破面付近で屈曲しているように見え、広口壺であったと考えられる。体部は球形状であり、その外面には密なヘラミガキ

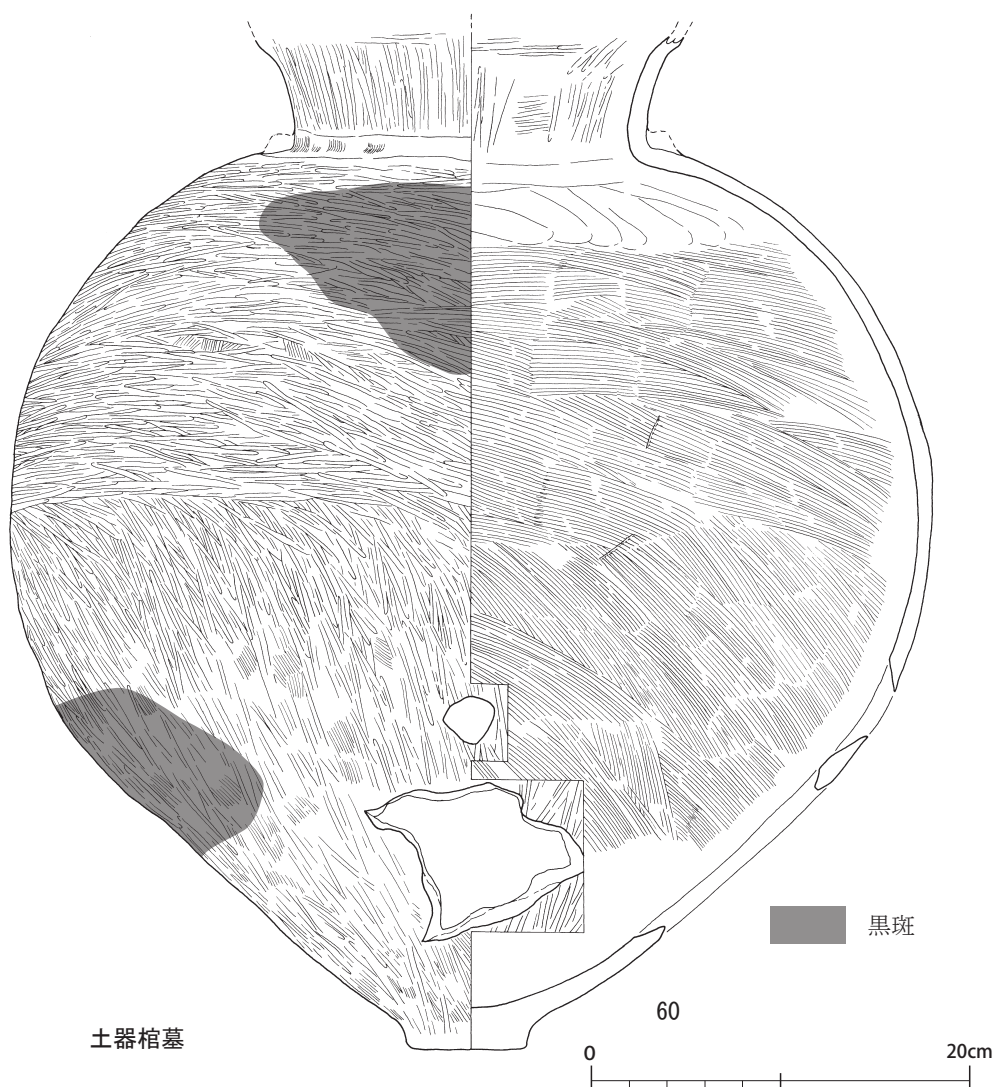


図23 出土遺物 7 (S.=1/4)

が見られる。体部最大径約 50cm に対し、径 6 cm の小さい突出した底部をもつ。これらの特徴からこの土器は大和第VI様式に比定でき、器高が 50cm を越える大型のものであることから大和第VI-2 様式に求められよう。

第4章 まとめ

今次調査地は葛城山・金剛山の東麓斜面地に立地し、その山麓から幾筋にも延びる微尾根の尾根線上に当たる。

名柄遺跡は過去 5 次にわたる発掘調査を行っている。それらの調査で注目されるのは第 1・2 次調査で検出した古墳時代中期後半の居館であろう。しかし、その後の調査では、居館と併行する時期の遺構は検出されておらず、第 3 次調査ではそれに後続する遺構が、第 4 次調査ではそれに先行するとみられる遺構が検出された。

今次調査では、中世以降・平安時代・古墳時代・弥生時代の 4 時期の遺構を検出した。古墳時代の遺構のうち、土坑やピットなどには必ずしも細別時期を特定できなかったものが含まれている。しかし、堅穴住居・土坑・溝のなかには古墳時代前期の遺構が認められ、第 4 次調査でその可能性が指摘された居館に先行する集落の存在が明らかとなった。ただし、確実に居館と併行する時期の遺構はほとんど認められなかった。古墳時代前期の集落にさらに先行する弥生時代後期の堅穴住居と土器棺墓が検出された。一方で、平安時代後期の掘立柱建物とそれを区画する溝や中世以降の素掘溝が検出された。

以上のように、名柄遺跡の一端を知り得たことは有意義である。しかし、古墳時代の集落の中でも重要な位置を占める居館やそれと併行する時期の遺構については、今なお明確ではない。今後の調査によって明瞭となることを期待したい。

補註

- (1) 以下、本書では瓦器・土師皿・土釜の型式分類と編年は、特に断らない限り松本洋明氏（松本 1988）に準拠した。
- (2) 以下、本書では古式土師器の形式分類と編年は寺澤 薫氏（寺澤 1986）に準拠した。
- (3) 以下、本書では須恵器の型式分類と編年は下記の文献に準拠した。
田辺昭三 1966『陶邑古窯址群 I』（『研究論集』第 10 号 平安学園考古学クラブ）。
- (4) 以下、本書では弥生土器の様式と編年は藤田三郎氏・豆谷和之氏（藤田・豆谷 2003）に準拠した。
- (5) 観察表中、弥生土器・土師器の胎土観察については『矢部遺跡』（寺澤編 1986）で採られた方法及び基準を援用した。観察に際しては『矢部遺跡』などで使用された顕微鏡と同等の性能をもつ、サンライズライト付顕微鏡 FF-393（×30）を使用した。なお『矢部遺跡』では、土器の胎土に含まれる鉱物の大きさ・量について、下記の各 5 段階の基準が設定されている。
鉱物の大きさ
①＝肉眼観察でも径 1.0 m/m 以上の砂粒として観察できるもので、スコープ内ではその多くを占める巨大な塊と見られるもの。
L＝肉眼観察では径 1.0 m/m 前後に確認できるもので、スコープ内では大きな塊として見られるもの。
M＝肉眼観察において径 0.5 m/m 程度に確認できるもので、スコープ内では大きな粒子として確実に観察されるもの。
S＝肉眼では殆ど判明できないが、スコープでは小さな粒子として十分観察しうる。
⑤＝肉眼では全く分からない。スコープではピンホール程度にかすかに観察できる。
鉱物の量
0＝観察では全く確認できなかったか、殆ど存在しないに等しい。

1＝極めて稀少であり、スコープ内に入らないこともままある。点在。
 2＝少ない。スコープ内には必ず入ってくるが、その量は数えられる程度である。散在しない偏在。
 3＝スコープ内には必ず入り、数えられる量ではない。普遍的に認められるが、間隔は粗である。
 4＝多い。スコープ内に際立って目立つ存在である。普遍的に認められ、その間隔は密である。
 5＝極めて多量である。スコープ全面に密集してみられる。鉱物がお互いに接するものもある程度である。
 また、胎土のあり方については、木許 守 編1996『室宮山古墳範囲確認調査報告』（『御所市文化財調査報告書』第20集）で示された5つの分類を援用した。表中（ ）はそれに近いものを示している、なお、空欄のものについては下記の分類に該当しないことから搬入土器とし、備考にそれを記している。

- 1：宮山古墳出土埴輪で主体を占めた2者のうち一方に似るもの。石英がやや大きく角閃石が少ない。
 長石M・2～3、石英M-L・2～3、角閃石S・1～2、雲母⑤-S・1～2、チャートS・0～1、赤色斑粒M・0～1
 - 2：宮山古墳出土埴輪で主体を占めた2者のうち一方に似るもの。チャートが大きく多い。
 長石S-M・2、石英M-L・3～4、角閃石S・1～2、雲母⑤-S・1～2、チャートM-L・2～3、赤色斑粒M・0～1
 - 3：中西遺跡出土土器で最も目立ったもの。
 長石S-M・2～3、石英S-M・2～3、角閃石S・2、雲母S・2～3、チャートS・0～1、赤色斑粒M・0～1
 - 4：楯原遺跡在土土器の典型とされたものに似るもの。
 長石S-M・3、石英S-M・3～4、角閃石S・3、雲母S・2、チャートS・0～1、赤色斑粒については甕がS・0～1、それ以外の器種がS-M・1～2
 - 5：雲母が大きく多いもの。
 長石S・2～3、石英M-L・2～3、角閃石S・1～2、雲母S-M・3、チャートM・1～2、赤色斑粒0
- (6) 前掲註(2)
 (7) 前掲註(4)
 (8) 前掲註(1)
 (9) 前掲註(3)

参考文献

- 秋山日出夫・網干善教 1959『室大墓』（『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告』第18冊）
 網干善教 1965「鐘子塚古墳」（『御所市史』）
 尾谷雅彦 1987「久宝寺遺跡出土の韓式系土器について」（『久宝寺北（その1～3）近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書』）
 木許 守 1990『中西遺跡－第2次発掘調査報告－』（『御所市文化財調査報告書』第9集）
 1991『中西遺跡－第3次発掘調査報告－』（『御所市文化財調査報告書』第10集）
 1992『掖上鐘子塚古墳第2次発掘調査報告』（『御所市文化財調査報告書』第14集）
 1995『名柄遺跡第4次発掘調査報告』（『御所市文化財調査報告書』第19集）
 木許 守 編 1996『室宮山古墳範囲確認調査報告』（『御所市文化財調査報告書』第20集）
 楠本哲夫 1978「御所市掖上鐘子塚古墳 前方部周濠発掘調査概報」（『奈良県遺跡調査概報 1977年度』）
 御所市教育委員会 2009『京奈和自動車道関連遺跡発掘調査概報Ⅱ』（『御所市文化財調査報告書』第35集）
 菅原正明 1983「畿内における土釜の製作と流通」（『文化財論叢』奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集）
 関川尚功 1989「御所市 室大墓古墳外堤部 発掘調査報告」（『奈良県遺跡調査概報 1988年度』第2分冊）
 高橋健自 1921「南葛城郡名柄発掘の銅鐸及銅鏡」（『奈良縣史蹟勝地調査會報告書 第6回』）
 寺澤 薫 1986「畿内古式土師器の編年と二・三の問題」『矢部遺跡』（『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告』第49冊）。
 寺澤 薫 編 1986『矢部遺跡』（『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告』第49冊）。
 奈良県立橿原考古学研究所 2011a「中西遺跡第15次調査」（『奈良県遺跡調査概報 2010年度』第1分冊）
 2011b『御所市秋津遺跡第5次調査現地説明会資料』
 坂 靖 編 1996『南郷遺跡群Ⅰ』（『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告』第69冊）ほか
 藤田和尊 1991「奈良県御所市名柄遺跡」（『日本考古学年報』42（1989年度版））
 1994『楯原遺跡Ⅰ』（『御所市文化財調査報告書』第17集）
 藤田和尊 編 2002『巨勢山古墳群Ⅲ』（『御所市文化財調査報告書』第25集）ほか
 藤田和尊・木許 守 編 2001『鴨都波1号墳 調査概報』学生社
 藤田三郎・豆谷和之 2003「奈良県における土器編年」『奈良県の弥生土器集成』（『橿原考古学研究所研究成果』第6冊）。
 松本洋明 1988『十六面・薬王寺遺跡』（『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告』第54冊）

表1 素掘溝一覧表

番号	検出長 (m)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋 土	方向	備考
1	5.7	30～40	4～8	C	南東	
2	3.7	23～28	3～9	C	南東	
3	2.8	25	6	C	南東	
4	2.4	24	5～9	C	南東	
5	4.6	20～24	4～10	C	北東	
6	4.3	27～36	10～13	B	南東	
7	2.2	26	4	B	南東	
8	7.4	25～45	6～16	B	南東	
9	2.8	43～71	13～17	B	北東	
10	3.4	28	7	B	南東	
11	5.2	46～86	4～7	B	南東	
12	2.4	23	4	B	南東	
13	6.3	30～44	12～38	B	南東	
14	2.5	22	7	B	北東	
15	2.3	44	7	B	北東	
16	2.8	24～32	9～12	B	北東	
17	0.4	44	3	B	北東	
18	1.0	34	10	B	南東	
19	1.2	25～48	4	B	北東	
20	0.4	22	3	B	北東	
21	0.8	24	5	B	南東	
22	0.8	30	16	B	南	
23	0.7	45	19	B	北東	
24	3.0	19	7	B	北東	
25	0.7	38～44	19	B	北東	
26	5.0	50	27～35	B	南東	
27	0.7	25～44	5	B	北東	
28	1.6	40	20	B	南東	
29	5.1	31～42	8	B	南東	
30	3.3	49	12	B	南東	
31	11.2	30～90	5～12	B	南東	
32	8.6	36	5	B	南東	
33	6.7	20～48	8～13	B	北東	
34	2.0	36	6	B	東	
35	12.4	28～32	11	B	南東	
36	16.7	55	11～16	A	南東	
37	29.6	54	18	B	南東	
38	1.3	25	7	C	南東	
39	2.4	33	9	B	東	

番号	検出長 (m)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋 土	方向	備考
40	18.8	35	12	A	*	溝の西端から7m までは南東方向。 7mの地点からほ ぼ東に屈曲する。
41	1.1	33	4～6	B	北東	
42	1.6	22	3	B	東	
43	4.0	33	16～25	B	北	
44	0.6	26	6	C	北	
45	12.3	42	3～10	B	南東	
46	17.8	40～50	10～18	C	南東	
47	16.1	43	8	C	南東	
48	1.9	18	2	B	南東	
49	3.0	32	6	B	南東	
50	1.4	33	10	C	北	
51	1.6	35	8	B	南	
53	1.3	42	5	B	南東	
54	1.9	32	8	B	南東	
55	17.6	32～40	4～8	B	南東	
56	11.0	46～61	11～18	B	南東	
57	4.6	49	17	B	南東	
58	13.7	20	3	B	南東	
59	12.8	42	7	B	南東	
60	12.7	34	15	B	*	L字状
61	7.8	32	10	B	北東	
62	5.9	52	6～10	B	北東	
63	2.9	41	15	B	南東	
64	8.2	42～64	16～25	B	北	
65	7.7	20～40	16	B	南東	
66	3.5	52	16	B	南東	
67	2.9	20	20	B	北	
68	6.0	20	10	C	南東	

凡例 A：灰色砂質土 B：淡灰色砂質土
C：青灰色粘質土

表2 ピット一覧表

中世

番号	長径	短径	深さ	埋土	備考
73	28	25	23	4	
118	18	14	7	3	

平安時代（掘立柱建物）

番号	長径	短径	深さ	埋土	備考
100	32		23	3	
101	36		29	3	
102	34		22	3	
103	32		18	3	
104	39	27	18	3	
105	34		21	3	
106	32		24	3	
107	30		25	3	
108	38	34	41	3	
109	47	34	42	3	
110	32	28	18	3	
111	38		40	3	
112	34		34	3	
113	36		30	3	
114	48		24	3	
115	43	36	44	3	
116	42	33	13	3	
117	40	34	16	3	

古墳時代

番号	長径	短径	深さ	埋土	備考
1	29	22	10	1	
2	34		18	1	
3	50	29	21	1	
4	32	24	17	1	
5	16		15	1	
6	(23)	17	24	1	
7	30	22	26	1	
8	34		7	1	
9	48	27	12	1	
10	33		15	2	
11	25		5	2	
12	30		25	2	
13	25		22	1	
14	40	32	18	1	
15	30		13	4	
16	26		5	1	
17	36	32	7	4	
18	32		27	3	
19	35	28	18	1	
20	35	29	13	1	
21	35	29	18	1	
22	34		15	1	
23	32		11	4	
24	48	38	17	4	
25	35		25	4	
26	47	37	15	4	
27	45		20	1	
28	34		17	1	
29	52		47	1	
30	20		12	1	
31	20		13	1	

番号	長径	短径	深さ	埋土	備考
32	32	27	19	1	
33	29	24	26	1	
34	33	27	13	1	
35	36	32	22	1	
36	33		20	1	
37	38	32	29	1	
38	42	35	17	1	
39	24		8	1	
40	49	37	32	1	
41	44		24	1	柱痕（黒色粘質土）あり
42	30	24	21	1	
43	22		9	1	
44	34	27	27	1	
45	22	18	10	1	
46	22		10	1	
47	20		12	1	
48	31	26	16	1	
49	25		15	1	
50	32		11	1	
51	20		11	1	
52	45	32	6	1	
53	38	33	32	4	
54	44		15	4	
55	34	30	23	1	
56	30		15	1	
57	27	24	10	1	
58	30	24	3	1	
59	32	28	13	1	
60	26	20	6	1	
61	14		7	1	
62	49	33	23	4	
63	31		18	1	
64	49	26	20	1	
65	37		32	1	
66	27	22	4	1	
67	32	26	7	1	
68	20		6	1	
69	35		10	1	
70	20		7	1	
71	21		10	1	
72	30		4	1	
74	28		6	1	
75	38	27	7	1	
76	57	28	40	1	
77	29	24	11	1	
78	48	36	16	1	
79	40		36	1	
80	22		22	1	
81	37	29	5	1	
82	23		6	1	
83	21		4	1	
84	26		10	1	
85	30		13	1	
86	38	33	10	1	
87	30	26	11	1	
88	32		8	1	
89	16		6	1	
90	40		26	1	

番号	長径	短径	深さ	埋土	備考
91	29		25	1	
92	29	25	16	1	
93	45		41	1	
94	30		17	3	
95	26		14	3	
96	22		48	3	
98	28	22	26	3	
99	30	24	21	1	
119	28	21	9	1	
120	26	21	14	5	
121	20	15	8	5	
122	21	16	17	5	
123	36	28	31	5	
124	13		4	1	
125	11		3	1	
126	16		9	1	
127	17		5	1	
128	25	21	8	1	
129	26		14	1	
130	28		12	1	
131	20		1	1	
132	28		4	1	
133	27		8	1	
134	26		9	1	
135	34	28	17	1	
136	45	40	13	1	
137	36		17	1	
138	33	29	12	1	
139	12		12	4	
140	20		27	4	
141	34		19	1	
142	41		17	1	
143	38	31	16	1	
144	38		17	1	
145	42	33	14	1	
146	55	40	21	1	
147	68	(50)	21	1	
148	37		12	1	
149	28		6	1	
150	30		32	1	
151	32		20	1	
152	44		21	1	
153	44	33	10	1	
154	30	25	5	2	
155	45	39	9	1	
156	32		23	1	
157	43		17	1	
158	27		13	1	
159	38		24	1	
159	22	20	6	1	
160	50		23	1	
161	43	37	28	1	
162	44	40	18	1	
163	50		18	1	
164	40	32	9	1	
165	42	38	9	1	
166	37		23	1	
167	19		6	1	

古墳時代（竪穴住居内にあるピット）

番号	長径	短径	深さ	埋土	備考
168	40	34	27	4	住居1
169	26	20	13	4	住居1
170	31	26	23	4	住居1
171	30	25	16	4	住居1
172	25		11	4	住居1
173	52		20	4	住居2
174	58		29	4	住居2
175	43		8	4	住居2
176	36		14	4	住居2
177	16		10	4	住居2
178	42		8	1	住居3
179	26		10	1	住居3
180	42		8	1	住居3
181	46		28	1	住居3
182	52		39	1	住居3
183	48		9	1	住居4
184	44		16	5	住居5
185	44		12	5	住居5
186	45	34	15	5	住居5
187	42		27	1	住居8
188	36		8	1	住居8
189	64		39	1	住居8
190	49	42	30	1	住居8
191	45		19	1	住居8
192	46	40	19	1	住居8
193	34		17	1	住居8
194	24	20	11	1	住居8
195	19		6	1	住居8
196	33		11	1	住居8

弥生時代（住居9内にあるピット）

番号	長径	短径	深さ	埋土	備考
197	22		14	4	
198	39		23	4	
199	36		36	4	
200	34		22	4	
201	34		7	4	
202	34		19	4	
203	34	30	29	4	
204	(40)	29	19	4	
205	29	22	8	4	
206	38		18	4	
207	36		37	5	
208	28		26	4	
209	36		7	5	
210	25		2	4	
211	38		12	4	
212	29	24	21	4	
213	43	36	11	4	
214	32	27	28	4	
215	30	25	19	4	
216	30	24	16	4	
217	33		6	4	
218	26		20	4	
219	29	25	10	4	

凡例 数値の単位はc m。括弧内の数値はそれ以上を示す。

埋土 1：黒褐色砂質土 2：淡青灰色粘質土
3：暗灰色砂質土 4：淡灰褐色砂質土
5：暗灰褐色砂質土

表3 弥生土器・土師器観察表

図一遺物番号 器種 出土場所	形態と調整 ・口縁部 ・体部 ・底部（脚部・高台）	焼成	胎土							胎土のあり方	色調・内面 ・断面	備考
			長石	石英	角閃石	雲母	チャート	赤色斑粒	その他			
17-1 弥生土器 壺 調査区北端 第8層（遺物 包含層）	口径 18.6cm（残存 1/2 からの反転復原） 残存高 10.1cm 頸部は緩やかに外反しながら、外に大きく開く口縁部に繋がる。 口縁端部は外傾する面を成し、端面の下方にやや肥厚している。 ・外面 ハケのち縦方向のヘラミガキ。口縁端部付近は摩擦により詳細不明。 内面 ハケのち横方向のヘラミガキ ・ ・	良好	S 1	M L 3	M 2	S 2	⑤ M 2	M 0	0	(2)	・ 淡赤褐色 ・ 暗赤褐色 ・ 暗赤褐色	口縁部内面に黒斑。
17-2 弥生土器 甕 調査区北端 第8層（遺物 包含層）	頸部径 11.9cm（残存 1/5 からの反転復原） 残存高 12.9cm 体部上半にその最大径があるが、頸部径との差はあまりない。底部は下方に突出した小さな平底である。底部下部は指頭による押圧によって外方に拡張している。底面は未調整である。その底部には糊圧痕がある。 ・ ・外面 体部上半はナデ、下半はタタキのちナデ 内面 イタナデのちナデ、下半はナデ ・外面 指頭による押圧 内面 ナデ	良好	M 1	M 1	S M 2	⑤ 2	M L 3	M 0	0		・ 淡赤褐色 ・ 黄灰色 ・ 黒灰色	搬入土器 長石・石英が少ない。 体部外面に煤。
17-3 弥生土器 甕 調査区北端 第8層（遺物 包含層）	口径 27.5cm（残存 1/10 からの反転復原） 残存高 10.5cm 口縁部は、内面に稜を成して屈曲し、外上方にのびる。口縁端部は外傾する面を成す。口径よりも体部最大径の方が大きい。 ・外面 ヨコナデ 内面 摩擦のため不明 ・外面 ハケ 内面 摩擦のため不明 ・	良好	⑤ S 1	L 4	S 1	0	L ④ 4	L 0	0		・ 淡黄褐色 ・ 淡黄褐色 ・ 黄灰色	搬入土器 長石が少ない。雲母は確認できない。 体部内面に煤。
17-4 土師器 高環 調査区南端 試掘 1 tr 遺物 包含層	口径 15.4cm（口縁部と裾部の一部欠損） 器高 11.5cm 体部と口縁部の境界はやや不明瞭な稜を成して屈曲し、口縁部は直線的に外上方にのびる。口縁端部は丸く収められている。脚柱状部は直線的に広がりながら屈曲して開く裾部に繋がる。裾端部は丸く、内面はヨコナデによってやや窪んでいる。柱状部の上端は中実である。 ・外面 横方向のヘラミガキ 内面 横方向のヘラミガキ ・外面 横方向のヘラミガキ 内面 横方向のヘラミガキ ・外面 脚部は縦方向のヘラミガキのち横方向のヘラミガキ。裾部は横方向のヘラミガキ 内面 摩擦のため不明	良好	S 1	M 3	M 2	S 1	S M 3	S 1	S 1	(2)	・ 暗赤褐色 ・ 暗赤褐色 ・ 黄褐色	坏部外面・内面に赤彩。 口縁部外面に黒斑。
17-5 土師器 小形丸底土器 調査区南端 試掘 1 tr 遺物 包含層	頸部径 5.9cm（口縁部欠損） 残存高 4.8cm 扁球形の体部をなす。 ・ ・外面 ケズリのちナデ 内面 指頭による押圧のちイタナデ ・外面 ケズリのちナデ 内面 指頭による押圧	良好	M 3	M 3	S 3	⑤ S 2	M 1	L 4	L 4	(4)	・ 赤黄褐色 ・ 淡黄褐色 ・ 灰白色	赤色斑粒が大きく多い。 体部外面に煤。
18-16 小形土師皿 溝 101 埋土	口径 9.2cm（残存 1/10 からの反転復原） 残存高 1.2cm 口縁部は「て」字状口縁を呈する土師皿 A である。 ・外面 ナデ 内面 ヨコナデ ・外面 ナデ 内面 ヨコナデ ・	良好	S M 1	M L 2	S 2	M L 4	M 0	L 0	0		・ 淡灰色 ・ 淡明褐色 ・ 淡灰色	搬入土器 雲母が大きく多い。
18-17 小形土師皿 溝 100 埋土	口径 10.0cm（口縁部の一部欠損） 器高 1.5cm 口縁部は「て」字状口縁を呈する土師皿 A である。底部は底部全面が幅広く窪んだ上げ底状の底部を呈する皿底部 C である。 ・外面 ヨコナデのち横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向のやや粗いヘラミガキ ・外面 横方向のやや粗いヘラミガキ 内面 横方向のやや粗いヘラミガキ ・	良好	0	④ 1	S 3	S M 4	M 1	M 0	0		・ 明褐色 ・ 明褐色 ・ 灰白色	搬入土器 長石は認められない。雲母が多い。

図一遺物番号 器種 出土場所	形態と調整 ・口縁部 ・体部 ・底部（脚部・高台）	焼成	胎土							胎土のあり方 その他	・外面 色調・内面 ・断面	備考
			長石	石英	角閃石	雲母	チャート	赤色斑粒				
18-18 大形土師皿 溝100埋土	口径 13.8cm（残存1/10からの反転復原） 残存高 2.2cm 口縁部が外傾状の直線的な立ち上がりをもつ土師皿Cである ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ナデ 外面 ナデ ・-	良好	S S1	M L3	M M3	S S3	M M1	0	0		・淡灰色 ・明褐色 ・淡灰色	搬入土器 長石が小さく少ない。角閃石が大きい。
18-19 大形土師皿 溝100埋土	口径 15.6cm（残存1/3からの反転復原） 残存高 2.9cm 口縁部が内彎状に丸みをもって立ち上がる土師皿Bである。 ・外面 強いヨコナデ 内面 強いヨコナデ ・外面 ナデ 内面 ナデ ・外面 ナデ 内面 ナデ	良好	S S2	M L2	S S3	S S3	0	0	0		・明褐色 ・明褐色 ・灰白色	搬入土器 角閃石・雲母が多い
18-20 土師器釜 溝100埋土	口径 23.7cm（残存1/10からの反転復原） 残存高 7.3cm 口縁部は内面に稜を成して屈曲し、ごく僅かに内彎しながら外上方にのびる。口縁端部を内側に折り返し丸く収める。肩部上方に鈎がめぐる。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 ヨコナデ 内面 ハケのちナデ ・-	良好	S S1	L L3	S S2	S S2	M M1	0	0	(3)	・暗赤褐色 ・黒褐色 ・赤褐色	外面・内面に煤
19-21 土師器 広口壺 住居1埋土	口径 24.3cm（残存1/3からの反転復原） 残存高 17.1cm 口縁部は、内面に稜を成して屈曲し、やや外反し外上方にのびる。口縁端部は外傾し、明瞭な端面を成す。その端面は上方に肥厚する。口頸部には1単位2本の棒状浮文を貼り付ける。また頸部には円形浮文と貼り付け凸帯がある。口縁端部と棒状浮文、凸帯に刻み目が施される。 ・外面 タテハケ後、口縁端部にヨコナデ、頸部にヨコハケが施される。その後、棒状浮文と円形浮文、凸帯が貼り付けられ、口縁端部と棒状浮文、凸帯に刻み目が施される。 内面 ハケのちナデ ・外面 横方向のヘラミガキ 内面 指頭による押圧のちナデ ・-	良好	S S1	M M1	S S2	S S2	L L1	M M3			・赤褐色 ・灰褐色 ・黄灰色	搬入土器 長石・石英が少なく、赤色斑粒が多い。
19-22 土師器 直口壺 住居1埋土	口径 22.4cm（残存1/2からの反転復原） 残存高 10.3cm 頸部から直線的に外上方にのびる。口縁端部は丸く、ヨコナデによって外面がやや窪んでいる。 ・外面 縦方向のハケのちヨコナデ 内面 横方向のハケのちヨコナデ ・- ・-	良好	S S2	M L2	S S3	S L2	M M1	0	0	(4)	・黄褐色 ・黄褐色 ・黄褐色	角閃石が多い。
19-23 土師器 壺 住居1埋土	残存最大径 17.3cm（残存部の反転復元） 残存高 11.8cm 体部は長胴形である。底部は下方に突出した小さな平底である。 ・- ・外面 体部上半は摩滅により不明。下半はケズリののち縦方向のヘラミガキ 内面 摩滅により不明 ・外面 ケズリののち縦方向のヘラミガキ 内面 指頭による押圧	良好	S S1	M M2	M M1	S S1	M L3	M M1		2	・赤褐色 ・赤褐色 ・赤褐色	底部内面に黒斑
19-24 土師器 壺 住居1埋土	残存最大径 20.4cm（残存部の反転復元） 残存高 6.9cm 底部は突出しない平底である。底面はナデによって平滑である。 ・- ・外面 横方向のヘラミガキ 内面 ケズリのちナデ ・外面 ケズリのちヘラミガキ。底面はケズリのちナデ 内面 指頭による押圧のちケズリ	良好	M M2	M L3	S S2	M L3	M M1	0	0	5	・黄褐色 ・黒灰褐色 ・黄褐色	底部外面に煤

図一遺物番号 器種 出土場所	形態と調整 ・口縁部 ・体部 ・底部（脚部・高台）	焼成	胎土							胎土のあり方 その他	色調・内面 ・断面	備考
			長石	石英	角閃石	雲母	チャート	赤色斑粒	その他			
19-25 土師器 甕 住居1埋土	口径 14.6cm（残存1/5からの反転復原） 残存高 11.9cm 口縁部は、内面に稜を成して屈曲し、やや内彎する。口縁端部は内傾し、内面に肥厚する。肩部には刺突文がある。 ・外面 摩滅のため不明。口縁端部はヨコナデ 内面 摩滅のため不明 ・外面 横方向のハケ 内面 ケズリ ・一	良好	S 2	M ・ L 2	M 1	⑤ 1	M 1	0	0	1	・暗褐色 ・暗褐色 ・灰色	体部外面 に煤
19-26 土師器 甕 住居1埋土	口径 12.6cm（残存1/3からの反転復原） 残存高 5.1cm 口縁部は、内面に稜を成して屈曲し、やや内彎する。口縁端部は内傾し、内面に肥厚する。 ・外面 ナデ 内面 摩滅のため不明 ・外面 ナデ 内面 摩滅のため不明 ・一	良好	S 1	M ・ L 4	S 3	⑤ ・ S 2	M 4	0	0	(2)	・赤褐色 ・赤褐色 ・赤褐色	
19-27 土師器 鉢 住居1埋土	口径 10.5cm（残存1/2からの反転復原） 器高 6.0cm 体部から口縁部は内彎しながら立ち上がる。底部は下方に突出し、中央が窪みあげ底である。 ・外面 ヨコナデ 内面 ケズリのちナデ ・外面 ケズリのち縦方向のハケ、その後ナデ 内面 ケズリのちナデ ・外面 指頭による押圧 内面 ケズリのちナデ	良好	0	M 1	⑤ ・ S 2	⑤ 2	① 1	0	0		・黄灰色 ・淡赤褐色 ・黒灰色	搬入土器 長石が認められない。石英が少ない。 体部外面 に黒斑
19-28 土師器 甕 住居1埋土	口径 16.0cm（残存1/4からの反転復原） 残存高 6.4cm 口縁部は、内面に稜を成して屈曲し、やや外反しながら外上方にのびる。口縁端部は外傾し、明瞭な面はもたずに丸く収められている。その端部は上方に肥厚する。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 ハケのちナデ 内面 ケズリのちナデ ・一	良好	S 1	M ・ L 4	S ・ M 3	S ・ M 2	M 1	L 1	0	(4)	・黄灰色 ・黄灰色 ・灰褐色	
20-29 土師器 器台 住居1埋土	口径 12.0cm（裾部の一部欠損） 器高 10.5cm 受部は浅い椀状を呈する。口縁端部は丸く収められている。脚部は円錐状である。裾端部は少し外反し、その端部は丸く収められている。脚部には径8～10mmの透孔が4方向から穿たれている。 ・外面 摩滅のため不明 内面 摩滅のため不明 ・外面 摩滅のため不明 内面 摩滅のため不明 ・外面 ヘラミガキ 内面 摩滅のため不明	良好	S ・ M 2	⑤ 1	S 2	⑤ 1	0	0	0		・赤黄褐色 ・黄褐色 ・淡黄褐色	搬入土器 石英が小さく少ない。
20-30 土師器 高坏か？ 住居1埋土	残存高 3.5cm（坏部と脚部の接合部のみ残存） 坏部と脚部の接合部。脚部は円錐状のようである。 ・一 ・外面 ヘラミガキ 内面 ナデ ・外面 摩滅のため不明 内面 ケズリ	良好	S 2	M 2	S 2	S 2	0	L 3	0	(3)	・暗灰褐色 ・黄褐色 ・灰褐色	
20-31 土師器 器台 住居1埋土	口径 9.2cm（残存1/4からの反転復原） 残存高 5.2cm 受部は皿形を呈し、体部と口縁部の境界は稜を成す。口縁部は直線的に外上方にのびる。脚部は直線的に広がる。 ・外面 摩滅のため不明 内面 摩滅のため不明 ・外面 摩滅のため不明 内面 摩滅のため不明 ・外面 摩滅のため不明 内面 摩滅のため不明	良好	M 2	S 1	S 2	⑤ 1	0	L ・ ① 3	0		・黄褐色 ・黄褐色 ・灰色	搬入土器 石英が少なく小さい。赤色斑粒が大きく多い。

図一遺物番号 器種 出土場所	形態と調整 ・口縁部 ・体部 ・底部（脚部・高台）	焼成	胎土							胎土のあり方 その他	・外面 色調・内面 ・断面	備考
			長石	石英	角閃石	雲母	チャート	赤色斑粒				
20-32 土師器 甕 住居1内 土坑19埋土	口径 15.5cm（残存1/4から反転復原） 残存高 9.9cm 口縁部は、内面に稜を成して屈曲し、やや外反し外上方にのびる。口縁端部は外傾し、明瞭な端面を成す。その端面はヨコナデによって上下に肥厚する。体部はあまり張らず、長胴形を呈すようである。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 ハケのちヨコナデ 内面 ケズリのちイタナデ ・-	良好	M 1	M 3	S M 3	S 3	M 1	0		(4)	・黄褐色 ・黄灰褐色 ・黄灰褐色	搬入土器 口縁部と 体部の外 面に煤
20-34 土師器 細頸壺 住居2埋土	口径 8.0cm（底部の一部欠損） 器高 19.2cm 頸部から口縁部はやや内彎しながら外上方にのびる。口縁端部は丸く収められている。頸部径は口径の約1/3で非常に細い。体部は扁球状を成す。底部は丸底であるが、やや尖底気味である。 ・外面 ヘラミガキ 内面 ヨコナデ ・外面 上半はヘラミガキ。下半はケズリのちヘラミガキ。 内面 ナデ ・外面 ケズリのち横方向のヘラミガキ 内面 ナデ	良好	S 2	M 2	M 2	⑤ 2	0	L 3			・赤褐色 ・赤褐色 ・黄灰色	搬入土器 赤色斑粒 が大きく 多い。 外面全面 と口縁部 内面に赤 彩
20-35 土師器 小形丸底鉢 住居2埋土	口径 8.0cm（完形） 器高 6.1cm 体部と口縁部の境界には明瞭な稜を成す。口縁部は直線的に外上方にのびるが、口縁端部はわずかに外反し、その先端を丸く収めている。体部は扁球状を成す。底部は丸底である。 ・外面 ヨコナデのちヘラミガキ 内面 ヨコナデのちヘラミガキ ・外面 ヨコナデのちヘラミガキ 内面 ナデ ・外面 ケズリのちナデ 内面 ナデ	良好	S 1	S 1	S 3	⑤ 2	0	L 4			・暗赤褐色 ・赤褐色 ・-	搬入土器 長石・石 英が小さ く少ない。 赤色斑粒 が大きく 多い。 口縁部外 面・内面 と体部外 面に黒斑。
20-36 土師器 甕 住居2埋土	底部頸 4.2cm（底部完存） 残存高 2.9cm 底部は下方に小さく突出し、中央が窪むあげ底である。底部下部は指頭による押圧で外方に拡張している。 ・- ・- ・外面 タタキのち指頭による押圧 内面 イタナデのちナデ	良好	S 1	M L 2	M 1	⑤ S 2	M 2	0		(5)	・黒赤褐色 ・灰褐色 ・黒灰色	外面に煤
20-37 土師器 小形丸底鉢 住居3埋土	口径 10.4cm（完形） 器高 7.4cm 体部と口縁部の境界は緩やかに屈曲する。口縁部は直線的に外上方にのびる。口縁端部は尖っている。体部は扁球状を成す。口縁高と体部高がほぼ等しい。底部は丸底である。 ・外面 横方向のヘラミガキ 内面 横方向のヘラミガキ ・外面 ケズリのち横方向のヘラミガキ 内面 ナデ ・外面 ケズリのちヘラミガキ 内面 イタナデ	良好	0	M 1	S 3	⑤ 2	0	L 4			・赤褐色 ・淡灰褐色 ・灰褐色	搬入土器 長石が認 められな い。角閃 石が多い。 外面と口 縁部内面 に赤彩。 口縁部外 面と体部 内面に黒 斑。
20-38 土師器 甕 住居3埋土	口径 14.2cm（残存1/5から反転復原） 残存高 18.0cm 口縁部は、内面に稜を成して屈曲し、やや内彎する。口縁端部は内傾し、内面はやや肥厚する。外面は丸く収められる。体部は最大径が中位にある。 ・外面 ヨコナデ 内面 縦方向のハケのちヨコナデ ・外面 上半は縦方向のハケのち横方向のハケ 内面 ケズリ ・-	良好	S 3	M 2	S 3	⑤ 2	M L 1	0			・淡黄褐色 ・暗灰褐色 ・淡灰色	搬入土器 石英が少 なく、角 閃石が多 い。 体部外面 に煤

図一遺物番号 器種 出土場所	形態と調整 ・口縁部 ・体部 ・底部（脚部・高台）	焼成	胎土							胎土のあり方	・外面 色調・内面 ・断面	備考
			長石	石英	角閃石	雲母	チャート	赤色斑粒	その他			
20-39 土師器 小形丸底土器 住居4内 土坑22埋土	頸部径 6.2cm（残存1/4からの反転復原） 残存高 4.4cm 体部は扁球状を成す。 ・－ ・外面 上半は横方向のヘラミガキ。下方はケズリのち横方向のヘラミガキ 内面 ナデ ・－	良好	S 1	S M 2	S S 3	S 2	0	M 2		・赤褐色 ・赤褐色 ・赤褐色	搬入土器 長石・石英が少なく、角閃石が多い。 外面に赤彩	
20-40 土師器 有孔鉢 住居4埋土	底部径 2.8cm（底部完存） 残存高 4.8cm 底部は下方に小さく突出する平底である。底部には径9mmの円孔を穿っている。 ・－ ・外面 指頭による押圧のちイタナデ 内面 ハケ ・外面 指頭による押圧のちイタナデ。底面はナデ 内面 指頭による押圧のちハケ	良好	S 1	M L 3	S M 2	M 2	M 1	0	(1)	・赤褐色 ・赤褐色 ・黄灰色		
21-42 土師器 二重口縁壺 土坑7埋土	口径 28.0cm（残存1/4からの反転復原） 残存高 5.9cm 口縁部は外反しながら外上方にのびる。口縁端部は丸く収められている。受部と口縁部と境界は、内面では明瞭ではなく、外面では断面三角形の突帯を貼り付けている。 ・外面 縦方向のヘラミガキ。口縁端部は縦方向のヘラミガキのちヨコナデ 内面 縦方向のヘラミガキ ・外面 縦方向のヘラミガキ 内面 縦方向のヘラミガキ ・－	良好	S 2	S L 3	S 2	S S 2	M L 3	0	2	・暗灰褐色 ・暗灰褐色 ・黄褐色	口縁部外面に黒斑	
21-44 土師器 甕 溝103埋土	口径 14.4cm（残存1/3からの反転復原） 残存高 14.8cm 口縁部は、内面に稜を成して屈曲し、やや内彎する。口縁端部は外側にやや肥厚し、ごく僅かに内傾する端面をもつ。体部は球形を呈する。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 上半はハケのちナデ。下半はハケ 内面 指頭による押圧 ・－	良好	S 1	M L 4	M 2	S M 3	M 1	0	5	・暗褐色 ・暗褐色 ・淡黒灰色	体部外面に煤	
21-45 土師器 甕 溝103埋土	口径 12.0cm（残存1/5からの反転復原） 残存高 9.7cm 口縁部は体部から緩やかに屈曲し、やや外反しながら外上方にのびる。口縁端部は外傾する面を成し、端面の下方にやや肥厚している。 ・外面 ヨコナデ。体部と口縁部の接合部は縦方向のハケのちヨコナデ 内面 ハケ。体部との接合部は指頭による押圧 ・外面 縦方向のハケ 内面 ケズリ ・－	良好	S S 2	M 3	S 2	S M 4	M 1	0	5	・暗黄褐色 ・黒褐色 ・暗黄褐色		
21-46 土師器 高坏 溝103埋土	口径 18.9cm（口縁部と裾部の一部欠損） 器高 12.9cm 体部と口縁部の境界には1条の沈線がある。口縁部は外反しながら外上方に開く。口縁端部は外傾した面を成し、端面の下方が僅かに肥厚している。脚部はやや直線的に外下方に広がりながら、緩やかに屈曲して開く裾部に繋がる。裾端部は端面を成し、上方に肥厚する。 ・外面 縦方向のハケのちヨコナデ 内面 ハケのちヨコナデ ・外面 縦方向のハケのちヨコナデ 内面 ヘラミガキのちナデ ・外面 縦方向のハケのち縦方向のヘラミガキ。裾部はナデ 内面 脚柱状部はケズリのちナデ。裾部はナデ	良好	S 3	M L 2	S 3	S 2	S 3	0		・暗赤褐色 ・暗赤褐色 ・暗赤褐色	搬入土器 長石・角閃石多い。 坏部と裾部の外面に黒斑	

図一遺物番号 器種 出土場所	形態と調整 ・口縁部 ・体部 ・底部（脚部・高台）	焼成	胎土							胎土のあり方	・外面 色調・内面 ・断面	備考
			長石	石英	角閃石	雲母	チャート	赤色斑粒	その他			
22-47 弥生土器 甕 住居9埋土上層	口径 20.7cm（残存 1/3 からの反転復原） 残存高 8.5cm 口縁部は体部から緩やかに屈曲し、外反しながら外上方にのびる。口縁端部は丸く取められている。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 ナデ 内面 摩滅のため不明 ・一	良好	M 2	M 3	S M 2	M 1	M 2	M 1	L 1		・明黄褐色 ・黄灰色 ・明黄褐色	口縁部と体部の外面に煤。 その他は花崗岩礫
22-48 韓式系土器 平底鉢 住居9埋土上層	口径 12.0cm（残存 1/2 からの反転復原） 器高 9.5cm 口縁部は外反しながら外上方に開く。口縁端部は外傾した面を成し、ヨコナデにより端面中央がやや窪んでいる。端面の上下方に肥厚している。体部は肩が張らず、やや内彎する。体部最大径と頸部径はほぼ等しい。底部は突出しない平底である。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 被熱により不明 内面 ヨコナデ ・外面 ナデ 内面 ナデ	良好	0	M 1	S M 3	◎ S 3	M L 3	0		・赤褐色 ・淡黄灰色 ・黒灰色	搬入土器 長石が認められない。角閃石が大きい。 体部外面に黒斑	
22-49 弥生土器 住居9埋土上層	底部径 4.2cm（底部完存） 残存高 2.1cm 底部は下方に突出した小さな平底であるが、中央が窪み上げ底になっている。 ・一 ・一 ・外面 指頭による押圧。底面はナデ 内面 指頭による押圧	良好	M 2	M L 3	S 4	◎ 1	0	M L 2		・淡黄褐色 ・淡灰色 ・淡灰色	搬入土器 角閃石が多い。赤色斑粒が大きい。	
22-50 弥生土器 住居9埋土上層	底部径 5.0cm（底部完存） 残存高 3.4cm 底部は下方に突出した小さな平底である。 ・一 ・一 ・外面 ヘラミガキおよびナデ 内面 ハケのちナデ	良好	S 1	M L 4	S 3	M 2	L 1	0	4	・淡黄褐色 ・黒灰色 ・黒灰色		
22-51 弥生土器 広口壺 住居9床面直上	口径 14.0cm（残存 1/3 からの反転復原） 残存高 6.4cm 頸部は僅かに外反しながら、外に大きく開く口縁部に繋がる。口縁端部は外傾する面を成し、端面の上下方に肥厚している。この端面と口縁部、頸部に約3mmの円形の竹管文が施されている。 ・外面 ナデのち竹管による刺突 内面 口縁部はヨコナデ。頸部はハケのちナデおよびベズリのちナデ ・一 ・一	良好	S 1	M L 4	S 2	◎ S 2	M 3	M 2	2	・暗黄褐色 ・暗黄褐色 ・淡灰褐色		
22-52 弥生土器 甕 住居9床面直上	口径 12.3cm（口縁部の一部欠損） 器高 11.8cm 口縁部は体部から緩やかに屈曲しながら、外に大きく開く口縁端部に繋がる。口縁端部はヨコナデによってごく僅かに立ち上がり成す。体部は球形を呈す。体部最大径は口径とほぼ等しい。底部は下方に突出した小さな平底であるが、中央が窪んでおり上げ底になっている。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 タタキ 内面 上半はハケのちナデ。下半は摩滅のため不明 ・外面 タタキおよびナデ 内面 摩滅のため不明	良好	S 2	◎ L 4	S M 3	◎ S 2	S M 2	0	2	・黄灰色 ・黄灰色 ・黄灰色		
22-53 弥生土器 甕 住居9床面直上	口径 13.0cm（残存 1/3 からの反転復原） 器高 12.4cm 口縁部は、内面に稜を成して屈曲し、外反しながら開く。口縁端部は丸く取められているが、端部下方はヨコナデによって小さく窪んでいる。体部は肩が張らず、緩やかに内彎し底部に繋がる。体部最大径は頸部径より僅かに大きい。底部は下方に突出した小さな平底であるが、底部中央が僅かに窪んでおり上げ底になっている。底部下部はナデによって外方に拡張している。 ・外面 ヨコナデ 内面 イタナデのちヨコナデ ・外面 タタキのちナデ 内面 イタナデのちナデおよびナデ ・外面 タタキ。底面はナデ 内面 イタナデのちナデ	良好	S 1	S 2	S 2	S 1	M L 3	L 1	(2)	・暗赤褐色 ・淡灰褐色 ・淡灰褐色	体部と底部の外面に煤	

図一遺物番号 器種 出土場所	形態と調整 ・口縁部 ・体部 ・底部（脚部・高台）	焼成	胎土							胎土のあり方 その他	・外面 色調・内面 ・断面	備考
			長石	石英	角閃石	雲母	チャート	赤色斑粒	その他			
22-54 弥生土器 裏 住居9床面直上	口径 12.5cm（残存1/5からの反転復原） 残存高 5.4cm 口縁部は、内面に稜を成して屈曲し、外反しながら開く。口縁端部は外傾したやや不明瞭な面を成す。 ・外面 ナデおよびナデ 内面 ナデ ・外面 タタキ 内面 ハケのちナデ ・一	良好	S 2	M 3	S 2	S 2	M 2	0	0	2	・暗灰褐色 ・黒灰褐色 ・黒灰色	
22-55 弥生土器 鉢 住居9床面直上	口径 13.0cm（完形） 器高 9.0cm 口縁部は、内面に稜を成して屈曲し、外反しながら開く。口縁端部は丸く収められている。体部は肩が張らず、緩やかに内彎し底部に繋がる。体部最大径は頸部径とほぼ等しい。底部は下方に突出した小さな平底であるが、底部中央がごく僅かに窪んでおり上げ底になっている。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 タタキのちナデ 内面 ハケ ・外面 タタキのちナデ 内面 ハケ	良好	S 1	④ 4	S 2	M 2	0	0	0	(4)	・赤褐色 ・赤褐色 ・一	口縁部外面に煤
22-56 弥生土器 鉢 住居9床面直上	口径 12.8cm（口縁部と体部の一部欠損） 器高 7.3cm 体部から口縁部は内彎しながら立ち上がる半球状を呈する。口縁端部は上方に端面を成す。その端面は指頭によって押圧されている。 ・外面 ヨコナデ。口縁端部は指頭による押圧 内面 ヨコナデ ・外面 ナデ 内面 イタナデ ・外面 ナデ 内面 ハケ	良好	M 3	M 2	S 4	S 2	M 3	M 3			・暗黄褐色 ・暗黄褐色 ・暗黄褐色	搬入土器 角閃石が多い。赤色斑粒が大きく多い。
22-57 弥生土器 有孔鉢 住居9床面直上	底部径 4.2cm（底部完存） 残存高 3.7cm 底部は下方に突出した小さな平底である。底部には径9mmの円孔が外面から内面方向に穿たれている。 ・一 ・一 ・外面 タタキのちハケ。底面はナデ 内面 ハケ	良好	S 1	M 4	S M 2	⑤ S 3	M 2	M 1		(5)	・暗灰褐色 ・黒灰色 ・暗灰褐色	
22-58 弥生土器 大形鉢 住居9床面直上	口径 21.7cm（口縁部の一部欠損） 器高 12.8cm 体部から口縁部は内彎しながら立ち上がる半球状を呈する。口縁端部は丸く収められている。口縁部には片口がつく。底部は下方に突出する小さな平底であるが、中央がやや窪んでおり上げ底になっている。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデのち縦方向のヘラミガキ ・外面 縦方向のヘラミガキ 内面 縦方向のヘラミガキ ・外面 縦方向のヘラミガキ 内面 縦方向のヘラミガキ	良好	S 1	L ④ 4	S M 2	L ④ 4	0	L ③ 3			・淡黄灰褐色 ・淡黄灰褐色 ・淡黄灰褐色	搬入土器 石英・雲母・赤色斑粒が大きく多い。 内面に黒斑
22-59 弥生土器 裏 住居9内 土坑25埋土	口径 14.8cm（残存1/5からの反転復原） 残存高 7.0cm 口縁部は緩やかに屈曲し、外反しながら外上方にのびる。口縁端部はヨコナデによって上方につまみ上げられ、小さな立ち上がり成している。 ・外面 ヨコナデ。頸部はタタキのちハケ 内面 ヨコナデ ・外面 タタキ 内面 横方向のハケ ・一	良好	S 2	M 2	S 2	⑥ 3	M L 3	M 1			・明赤褐色 ・明赤褐色 ・明赤褐色	搬入土器 チャートが大きく多い。

図一遺物番号 器種 出土場所	形態と調整 ・口縁部 ・体部 ・底部（脚部・高台）	焼成	胎土							胎土のあり方 その他	色調・内面 ・外面 ・断面	備考
			長石	石英	角閃石	雲母	チャート	赤色斑粒	その他			
23 - 60 弥生土器 壺 土器棺墓	頸部径 18.7cm（残存 3/4 からの反転復原） 残存高 53.2cm 頸部は緩やかに外反しながら、外上方にのびる。頸部と体部の境界は弱い稜を成す。またその境界には突帯が張り付いていた痕跡が残っている。体部は球形状を呈する。体部下半には2箇所に穿孔がみられる。底部は下方に突出した小さな平底である。 ・外面 縦方向のヘラミガキ 内面 ハケのちヘラミガキ ・外面 上半は横方向のヘラミガキ。下半はハケのち縦方向のヘラミガキ 内面 ハケ ・外面 ハケのち縦方向のヘラミガキ 内面 ナデ	良好	S 3	M 1	S 4	⑤ 3	M 1	0		・淡赤褐色 ・黒灰色 ・赤褐色	搬入土器 石英が少なく、角閃石が多い。 体部外面に黒斑	

表4 須恵器観察表

図一遺物番号 器種 出土場所	形態と調整 ・口縁部 ・体部 ・底部（脚部・高台）	焼成	胎土							胎土のあり方 その他	色調・内面 ・外面 ・断面	備考
			長石	石英	角閃石	雲母	チャート	赤色斑粒	その他			
21 - 41 須恵器 無蓋高环 土坑5埋土	口径 16.2cm（残存 1/20 からの反転復原） 残存高 4.2cm 口縁部は直線的に外上方にのびる。口縁端部は丸く収められている。体部外面には沈線によって稜を成す。その稜で区分された文様帯があり、1単位3条の櫛描波状文が巡る。また、断面長方形の把手がつく。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・一	良好								・濃灰色 ・濃灰色 ・暗赤紫色		
21 - 43 須恵器 壺 溝 102 埋土	底部径 4.6cm（口縁部欠損） 残存高 3.9cm 体部は扁球状である。底部は平らであるが、中央部がごく僅かに盛り上がり上げ底風になっている。 ・一 ・外面 上半はナデ。下半はケズリ 内面 ナデ ・外面 ケズリ。底面はナデ 内面 ナデ	良好								・灰白色 ・灰白色 ・灰白色		

表5 瓦器観察表

図一遺物番号 器種 出土場所	形態と調整 ・口縁部 ・体部 ・底部（脚部・高台）	焼成	胎土							胎土のあり方 その他	色調・内面 ・外面 ・断面	備考
			長石	石英	角閃石	雲母	チャート	赤色斑粒	その他			
18 - 6 瓦器椀 溝 36 埋土	口径 14.6cm（残存 1/20 からの反転復原） 残存高 4.2cm 口縁部は口縁端部に沈線が施される椀口縁 D である。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 指頭による押圧のち横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向の粗いヘラミガキ ・一	良好								・黒灰色 ・黒灰色 ・灰白色		
18 - 7 瓦器椀 溝 37 埋土	口径 15.0cm（残存 1/3 からの反転復原） 器高 5.0cm 口縁部は口縁端部に沈線が施され、端部が外反された椀口縁 E である。底部は高台によって中空を成す椀底部 A である。高台は低い逆三角形の高台 D である。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 指頭による押圧のち横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向の密なヘラミガキ ・外面 ナデ 内面 ナデか？	良好								・淡黒灰色 ・灰白色 ・灰色		
18 - 8 瓦器椀 溝 101 埋土	口径 14.8cm（残存 1/3 からの反転復原） 器高 6.2cm 口縁部は口縁端部に沈線が施される椀口縁 D である。底部は高台によって中空を成す椀底部 A である。高台は外湾状に開いた高台 B である。 ・外面 ヨコナデ 内面 横方向のヘラミガキ ・外面 指頭による押圧のち横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向のヘラミガキ ・外面 横方向のヘラミガキおよびナデ 内面 連結輪状もしくは同心円状の暗文	良好								・黒灰色 ・黒灰色 ・淡黄灰色		

図一遺物番号 器種 出土場所	形態と調整 ・口縁部 ・体部 ・底部（脚部・高台）	焼成	・外面 色調・内面 ・断面	備考
18-9 瓦器腕 溝 101 埋土	口径 13.8cm（残存 1/3 からの反転復原） 器高 6.4cm 口縁部は口縁端部に沈線が施される腕口縁 D である。底部は高台によって中空を成す腕底部 A である。高台は外傾状に張り付いた厚みのある高台 A である。 ・外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ ・外面 指頭による押圧のち横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向の粗いヘラミガキ ・外面 横方向のヘラミガキおよびナデ 内面 連結輪状もしくは同心円状の暗文	良好	・黒灰色 ・黒灰色 ・淡黄灰色	
18-10 瓦器腕 溝 101 埋土	口径 14.8cm（残存 1/3 からの反転復原） 器高 6.2cm 口縁部は口縁端部に沈線が施される腕口縁 D である。底部は高台によって中空を成す腕底部 A である。高台は外傾状に張り付いた厚みのある高台 A である。 ・外面 ヨコナデ 内面 横方向のヘラミガキ ・外面 指頭による押圧のち横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向のやや粗いヘラミガキ ・外面 横方向のやや粗いヘラミガキおよびナデ 内面 -	良好	・黒灰色 ・黒灰色 ・淡黄灰色	
18-11 瓦器腕 溝 101 埋土	口径 14.6cm（残存 1/10 からの反転復原） 残存高 4.8cm 口縁部は口縁端部に沈線が施される腕口縁 D である。 ・外面 ヨコナデのち横方向のやや粗いヘラミガキ 内面 横方向のヘラミガキ ・外面 横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向のやや粗いヘラミガキ ・ -	やや軟	・淡黄灰色 ・淡黄灰色 ・淡黄灰色	
18-12 瓦器腕 溝 101 埋土	口径 14.8cm（残存 1/6 からの反転復原） 残存高 5.3cm 口縁部は口縁端部に沈線が施される腕口縁 D である。 ・外面 ヨコナデのち横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向の粗いヘラミガキ ・外面 横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向の粗いヘラミガキ ・ -	良好	・黒灰色 ・黒灰色 ・灰白色	
18-13 瓦器腕 溝 100 埋土	口径 14.8cm（残存 1/10 からの反転復原） 残存高 4.8cm 口縁部は内面に沈線が施される腕口縁 C である。 ・外面 ヨコナデのち横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向のヘラミガキ ・外面 横方向のヘラミガキ 内面 横方向のヘラミガキ ・ -	良好	・黒灰色 ・黒灰色 ・淡灰白色	
18-14 瓦器腕 溝 100 埋土	口径 13.6cm（残存 1/20 からの反転復原） 残存高 4.0cm 口縁部は口縁端部に沈線が施される腕口縁 D である。 ・外面 ヨコナデのち横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向のやや粗いヘラミガキ ・外面 横方向のやや粗いヘラミガキ 内面 横方向のやや粗いヘラミガキ ・ -	やや軟	・黒灰色 ・黒灰色 ・淡灰白色	
18-15 瓦器腕 溝 100 埋土	口径 15.2cm（残存 1/10 からの反転復原） 残存高 5.1cm 口縁部は口縁端部に沈線が施される腕口縁 D である。 ・外面 ヨコナデのち横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向のやや粗いヘラミガキ ・外面 指頭による押圧のち横方向の粗いヘラミガキ 内面 横方向のやや粗いヘラミガキ ・ -	良好	・黒灰色 ・黒灰色 ・淡灰白色	

